

a 学校教育目標	みはらミライの挑戦 ーレッツ チャレンジー	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 子どもたちの未来を保障し、地域とともにある学校 【ビジョン】(自校の将来像) 自分の未来、愛するふるさとの未来を創る教育活動を創造する。
----------	-----------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策等	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					適正	不明	不適正	
確かな学力の育成	学び力の土台づくり(基礎・基本の定着)	桜山・柳の坂タイムによる基礎の回復や個別指導の充実	①国語科・算数科の学期末テストの平均90点以上の児童の割合(低学年)、80点以上の児童の割合(3年生以上) ②NRT各教科の標準偏差	①90%以上(低学年)80%以上(3年生以上) ②市平均+0.5ポイント	①1・2年生国語:85.8% 算数:85.8% 3年生以上国語:82.4% 算数:83.1% ②未実施	①1・2年生国語:95.3% 算数:95.3% 3年生以上国語:103% 算数:104%	①105% ②100%	B	①低学年は、目標を達成することができなかった。国語科では、特に知識技能の分野(漢字や語句や言葉など言葉に関する問題)に課題が見られた。算数科では、知識技能の分野(筆算、順序数を求める問題)や、何を聞かれているかがとらえきれず誤答する児童が複数見られた。3年生以上では、全体を合計すると目標を達成することができたが、70%台に達成率が留まった学年もある。漢字の定着や初めて読む文章の読み取り、四則計算等の積み重ねが課題である。 ②今年度は12月に標準学力調査を行うため、現時点での結果は出ていない。目標を達成するために、朝学習の内容をカレンダーに明記したり、授業時間で模擬テストを行ったりと、計画的に対策を行っている。	・国語科の漢字や語彙、初めて読む文章でも内容を正しくとらえることや算数科の四則計算の定着に向けて、プリントや市販のドリルを活用し、桜山タイムでの反復学習を徹底して継続する。さらに、問題を解いた後には見直しをすることを徹底する。 ・全ての児童を鍛えるために、担任と担任外の教員が連携して、組織的に学力補充の時間を実施することを継続する。 ・児童が問題の情報を整理するために、どの教科においても、問題に線を引いたり印を付したりする取組を今後も行う。 ・標準学力調査の本番に向けて、模擬テストを、時間配分にも注意しながら行う。そして、解答後速やかに添削し、なおしを徹底する。	○			○動画中心の生活になっている中、基礎力の低下が顕著に感じられる。やはり、字を読む習慣が必要であると思う。参観した授業では、カルタ方式で文章を構成する工夫等が見られ、課題に対する改善が教員間で共有されていると思った。学習が好きになる仕掛けが目標値へと導いてくれると感じた。 ○学校ではたくさん工夫して指導して下さっている。家庭との連携がさらに増え、苦学や学びの情報が共有ができたよいと思う。 ○90%の指標は高すぎるので85%にしてもよいのではないか。
	学び力の向上	めざす子供像「学び続ける子供」に向けた、「ミライプランadvance」を活用した授業づくりや相互参観・研究授業の実施	①児童アンケートにおける肯定的回答の割合「授業で学んだ大切なことを考え、ふりかえり(R80)を書くことができています」「自分に合った学び方を考えて、自分から工夫して勉強している」 ②算数科の単元づくりを学期に1回以上	①85%以上 ②100%	①100% ②100%	①105% ②100%	A	①全学年で目標を達成することができた。特に「授業で学んだ大切なことを考え、ふりかえり(R80)を書くことができています」という質問に対し、高学年は91.4%の児童が肯定的回答をすることができた。ただし、強い肯定を示した割合は30%台を示している学年が多かった。どの質問にも自信をもって取り組んでいると回答しにくいことが課題である。 ②どの学年も、学期に1回以上算数科の単元づくりに取り組むことができた。一人一授業を算数科で統一して行っている成果である。	・児童が自信をもってR80を書いたり、学び方を自ら考え、工夫して勉強したりして回答できるよう、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:逆向きの授業設計を行い、本時のめざす姿(R80)を明確にした授業づくりを1時間でも多く実施する。 イ:7チャレンジシートを活用した学びの自己選択の場や算数モンスタ-を発揮しながら主体的に学ぶ場を、意図的に仕組んでいく。 ウ:授業改善に向けて、相互参観や授業研究において授業改善シートをもとに思いついた意見を伝え合う。 ・自律した学習者の育成を目指して、「ミライプランadvance」の単元構成で、引き続き算数科の単元開発に取り組む。	○				
豊かな心の育成	自己肯定感が高く、仲間と共に本気で挑戦する児童の育成	めざす子供像「自分と人を大切にすること」に向けた、仲間と関わり合い、認め合い、高まり合う集団づくり活動の実施 ・学年目標の達成に向けた連続性のある活動 ・充実した縦割り班活動 ・計画的な特活研修	①児童アンケートにおける肯定的評価の割合「自分のよさを知っている」「クラスの仲間の全員のよさを1つずつはわかる」「クラスのため、学年のため、学校のために、一緒に高まろうとしている」 ②自己実現に向けたフィードバックの実施率「学年目標に対する日々のフィードバックを週1回以上」 ③「学年目標にリンクした行事の目標のフィードバックを行事ごとに」	①85%以上 ②90%	①88.2% ②85.4%	①104% ②95%	B	①肯定的評価の割合に着目すると、「自分のよさ」においては、低学年82.8%、高学年79.2%となっており、目標値に達していなかった。全体的に、自己肯定感が低いことが分かる。「クラスの仲間の全員のよさ」においては、低学年89.1%、高学年92.8%となっており、目標値に達していた。「クラス、学年、学校のため」においては、低学年90.3%、高学年95%となっており、目標値に達していた。特に高学年においては、学校行事や委員会活動、縦割り班活動等で、学校のために活動する場面が多かったことが、高い肯定的評価につながっていると考えられる。 ②実施率に着目すると、「学年目標に対する日々のフィードバック」においては、82.4%、「学年目標にリンクした行事の目標のフィードバック」においては、88.3%となっており、両項目とも目標値に達していなかった。特に「日々のフィードバック」の達成値が低く、日々の授業や生活面での学年目標とのつながりが意識できていないことが分かる。	・児童一人一人の自己肯定感を向上させるために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:互いの個性に触れ合うことができるように、自己評価や他者評価の場を授業や朝の会・帰りの会でさらに充実していく。 イ:自他のよさに気づくことができるように、学級活動における係活動を継続的・創造的に実施したり、学期に数回程度構成的グループエンカウンターを継続して実施したりする。 ウ:仲間と共に達成感を味わうことができるように、週3回の縦割り班掃除では、役割を明確化して協働的に取り組んだり、学期に数回、縦割り班でのイベントを実施する。 ・学年目標に向けて学年が一丸となって取り組めるように、学年間の連携をこれまで以上に密にし、学年目標に基づいた行動目標を、日々の授業や生活場面、学校行事において掲げ、そして振り返りを行っていく。	○			○縦割り班活動を充実させることで、子供達は楽しみが増え、仲間が広がり素晴らしいと思う。 ○帰りの会などで良い所を褒め合ったり、学年によってはお笑い係の様にクラスの雰囲気盛り上げたり、子供達がお互いに関わりができていたと感じた。 ○アンケート調査において「はい、いいえ」だけでなく「記述式」にすることで児童の思いをさらに見ることができるとは思っている。	
	生活習慣及び運動習慣の身に付いた児童の育成	自分力の土台づくり(運動習慣の定着)	魅力的な わんぱくタイムの実施	児童アンケートにおける肯定的評価の割合「体を動かすことが好き」	90%以上	1~3年生 94.3% 4~6年生 85.1%	1~3年生 104.7% 4~6年生 94.5%	B	低学年は目標値を達成することができた。わんぱくタイムの内容が低学年の実態に合わせていたと思われる。高学年は、目標値を達成できなかった。その原因として、近年の気温の上昇により運動をすることを避けるようになったことが考えられる。下半期は、過ごしやすい気温になるはずなので、各学年の実態に応じて、工夫したわんぱくタイムを実施していく必要がある。	・全学年で「体を動かすことが好き」の肯定的な評価の割合を上げるために、以下の2点を今後も継続して行い、運動に関わる機会を増やす。 ア:主体的に運動に取り組めるように、異学年交流等の工夫を取り入れたわんぱくタイムを体育委員会の企画・運営で行う。 イ:多くの児童が運動することの楽しさをさらに実感できるように委員会だけでなく、各学級においても外での集団あそびを推進する。	○			○工夫しながら運動に取り組まれていた。夏場も空き教室を上手に利用して室内で楽しめたらと思う。 ○歯磨きの重要性を伝える意識改革に取り組んでいることは評価に値する。基本的な生活習慣の定着は非常に重要である。
健やかな体	自分力の土台づくり(生活習慣の定着)	歯と口の健康に向けた活動の充実 ・学校医を招いての歯と口の授業 ・虫歯予防ポスターの作成 ・保健委員会を中心とした啓蒙活動	児童アンケートによる肯定的評価の割合「歯と口の健康のために、給食後自分から歯磨きをしている」	85%以上	1~3年生 89.2% 4~6年生 84.1%	1~3年生 104.9% 4~6年生 98.9%	B	高学年は、目標値を達成することができなかった。高学年の方が、休み時間に早く遊びに行きたくて歯磨きをしなかったり、歯ブラシセットを持ってきていなかったりすることが原因として考えられる。下半期は、全校での歯磨きの習慣化の徹底を目指すためにも、保健給食委員会を中心に、校内で歯の活動を盛り上げていく必要がある。	・歯磨きの重要性をより強く認識し、行動につなげ、肯定的な評価の割合を上げるために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:歯磨きの重要性をさらに認識するために、保健給食委員会が中心となって、歯磨きに関するクイズや声かけを行う。 イ:給食後の歯磨きを推進するために、コンテストで決まった児童のイラストが入った手鏡を作成し、歯磨き時に活用する。 ウ:歯磨きを楽しみながら取り組めるように、保健委員会主催の全校で行う取組を、定期的の実施していく。	○			○わんぱくタイムと運動への意識が運動しているかどうか過去のデータをもとに評価する必要がある。また、好きの基準が明確になれば分かり易いのではないか。	
	保護者・地域から信頼される学校づくり	自分力・つながり力・ゆめ力の向上	めざす子供像「ふるさと三原を愛する子供」に向けた、地域の強みに基づくクルー活動の充実	児童アンケートによる肯定的評価の割合 ①「三原のために自分の力を発揮したい」 ②「三原が好き」	85%以上	1~3年生 ①88.5% ②95.4% 4~6年生 ①92.3% ②96.8%	1~3年生 ①104% ②112% 4~6年生 ①108% ②113%	A	①全学年で目標を達成することができた。CSボランティアとして保護者や身近な人だけでなく、地域の方々にも支えられていることを実感する機会が増えたと考えられる。しかし、強い肯定が低学年は56.8%、高学年は59%と、全校を通して6割以下であった。 ②全学年で目標を達成することができた。三原が好きだと回答する児童が多いことは、地域の良さを実感する機会が多かったためだと考えられる。	・大好きな三原のために自分の力を発揮したいという意識の向上を図るために、以下の3点に重点的に取り組む。 ア:多くの方に支えられていることをさらに実感できるように、三原小クルーに関する学年の活動を、今後も計画的に実施する。 イ:地域の方々との関わりを増やすために、月に1度、CSルームを開き、地域と一緒に学びや遊びをする時間を設定する。 ウ:MLボランティアを引き続き計画、実施し、みんなのために動くことの肯定的評価を行う。	○			○地域の強みを学ぶ活動は非常に重要であると思う。その中で個別に学び、力を伸ばす取組も行って欲しい。 ○地域の方に意見を頂きつつ学校の方針も理解して頂きながら子供達のために良い取組にしたい。 ○MLボランティアの活動が児童主体でとても素晴らしいと感じた。 ○働き方改革については今後協議し、より良い方策を考えていきたい。
信頼される学校	働き方改革(次世代の働き方への体制づくり)	業務の進捗管理の見える化	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	—	—	—	—	現時点において、4月~9月の6か月間で時間外勤務月45h以下になっている職員は、6カ月:68%、5カ月:18%、4カ月10%、3カ月4%であった。時間外勤務が多い職員は、主任の教諭や主任の教諭、行事担当の教諭であった。引き続き校内体制の見直しをしていく必要がある。	・計画的・組織的に2学期の部の運営ができるように、夏季休業中に数回部会を開き見直しをもった。 ・主任や担当の教諭が抱え込まず部内で協力し業務を平準化できるように、定期的な声掛けを実施する。 ・退校時刻を早められるように、個に応じた声掛けをする。	○			

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ハ:わからない。
ロ:自己評価は適正でない。